

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4271101323
法人名	社会福祉法人 日浦会
事業所名	社会福祉法人日浦会 認知症高齢者グループホーム レーブそとめ
所在地 (電話番号)	長崎市上黒崎町2199-14 (電話) 0959-25-1700

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年1月16日	評価確定日	平成20年5月12日

【情報提供票より】(平成19年12月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1日当たり	1,000円	

(4) 利用者の概要(平成19年12月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 外海弘仁会 日浦病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家が疎らになる山の中腹から頂きにかけて桜並木が整備され、地域福祉の貢献を目指す法人施設の広大な敷地の中のホームへとつながっている。木々に囲まれ眼前に広がる海、何にも遮られる事なくふりそそぐ太陽、自然に恵まれた中でゆっくりと流れる時間を過ごしている。手作りの菜園や玄関前はプランターに花が植えられ、一歩中に入ると俳句・和紙細工・手作り人形等、展示会に出品された作品が飾られている。施設長から入居者の方々へ“癒しを”という思いでプレゼントされた子犬は、既に成犬となりホームの一員として入居者の度々の外出にも、付き添い散歩しゆったりとした安楽の時間を過ごしている。広いフローアやソファ、扇等の正月飾りや鬼火行事の写真が飾られ、廊下の片隅にソファや椅子が置かれ思い思いに過ごす場所や、畳の部屋では洗濯物をたたんでいる姿等、まるで大きな家族のような思いを抱く。入居者が職員に求めるベストとして、いつも笑顔を絶やさないで欲しい、声を掛けて欲しい、どんなに忙しくても返事をしたい、よく話を聴いて欲しい、呼ぶ時は名前前で呼んで欲しいを常に意識実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①入居者の満足度等“理念”に結びつくような話題をお便りに載せ、現状を振り返りながら話し合い新たに部署目標を掲げ実践している②担当職員がモニタリングを実施し必要に応じ専門職種に相談し、個別・具体的な計画作成に取り組んでいる③急変時や事故発生時の対応マニュアルにより職員の理解されており、外部研修の機会も増えてきている現状で、今後救命救急研修等の参加も考えている</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>①管理者が項目説明をし職員と話し合いケアの方法・取り組みが必要な事、地域との交流等を再確認しながら記入し、新たな発見やケアの見直しの良い機会となったと職員は思っている。前回評価結果に基づきホーム内の会議で検討し、法人の主任会議に提議し改善に向けて取り組んでいるが、組織運営上改善が難しい部分もある</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>推進会議を併設ホームと同日開催を予定しているが、第1回目はホームだけで開き併設ホームの会議の見学等、今取り組みを始めた状況である。参加者に入居者、家族代表、自治会長、すこやか支援課、事務長、管理者を予定している。地域密着型サービスになり地域との連携についてや、運営推進会議を開催するにあたり市へ相談し助言を頂いている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>“レーブだより”をお送りしホーム全体の暮らしぶりや新入職員のお知らせし、来訪時に個別に健康状態や薬について、お話ししたり電話で報告している。ホーム内では金銭管理を行っていないが、自分で出来る方には自己管理して頂いている。ご意見・不満・苦情等を率直に言ってくれるよう、ご意見箱の設置や言い難い事は併設施設の相談員に言って頂くようお願いしている。家族と話し合う関係作りは出来ており、ご意見を直接言って頂き記録に残し、理事長・施設長へ相談し段差部分のスロープ設置につながった。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地理的問題等で孤立しがちであるが「来られ時には寄ってください」と、職員が声を掛け見学に来て頂けるように努めている。産業祭りに俳句や人形等の作品を展示会に出品したり、地域の方をお誘いしてゲートボール大会を見に行っている。併設施設の慰問に保育園児・小・中学校が訪れた時は入居者も見学に行ったり、子供会の空き缶回収に参加し触れ合いの場は確保されている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域福祉への貢献、利用者の満足度の向上、職員の和と明るい職場という理事長の思いを基に、地域医療活動を始められホームがかいせつされた。業務に追われ入居者とゆっくり関わり、話をお聞きする事が少なくなってきた事に心を痛み、職員で話し合いH.18.法人内施設の理念を基に、部署方針として“入居者の声に耳を傾ける”を掲げ“入居者と職員の触れ合いの時間を作る”をH.19年度の到達目標とし、満足して頂けるよう実践に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム玄関に掲示し、管理者は会議で日常業務の中で入居者・地域の為にどうすれば満足して頂けるか職員と一緒に常日頃より話し合い、院長は地域の貢献、入居者を大事にする事を常に伝えていく。孤立しないよう人との交流を支援し、全体朝礼や会議の中で“心訓、人生訓”を取り入れて唱和すると共に“レーブだより”に理念に触れる内容が盛り込まれ、常に言葉使い等気をつけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地理的問題等で孤立しがちであるが、たまたま来られてホームを見学されたり「来られ時には寄ってください」と、職員が声を掛けている。産業祭りに俳句や人形等の作品を展示会に出品したり、地域の方をお誘いしてゲートボール大会を見に行っている。実現には至っていないが子供会へ花火大会の働きかけを行い、併設施設の慰問に保育園児・小・中学校が訪れた時は入居者も見学に行ったり、子供会の空き缶回収に参加し触れ合いの場は確保されている。	○	家族の送迎の問題等、今後も検討課題はあるが系列のホームと合同の行事も考えたいとの思いがあり、地域の方に訪問して頂けるような取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長は評価の意義を踏まえ事務長・管理者に一任し、管理者が項目説明をし職員と話し合いケアの方法・取り組みが必要な事、地域との交流等を再確認しながら記入した。自己評価を行う事で新たな発見や、行わなければならない事を見出すのにつながり、ケアの見直しの良い機会となったと職員は思っている。前回評価結果に基づきホーム内の会議で検討し、法人の主任会議に提議し改善に向けて取り組んでいるが、組織運営上改善が難しい部分もある。	○	母体の施設がある事によるホームの利点を活かしながら、改善計画を作成され、今後の取り組みについて検討される事に期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の開催にあたり市に相談して、併設ホームと同日開催を予定しているが第1回目はホームだけで開き、併設ホームの会議を見学する等、今取り組みを始めた状況で、参加者に入居者、家族代表、自治会長、すこやか支援課、事務長、管理者を予定している。	○	推進会議が今後計画的に開催されていく事で、外部評価の取り組みや報告事項、ホームの取り組み等の情報提供により地域の理解を深める事にもつながっていく。今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設施設の相談員・ケアマネジャーが、申請等の事務手続きも行っており、ホームから直接窓口へ伺う事はない。地域密着型サービスになり地域との連携についてや、運営推進会議を開催するにあたり相談し助言を頂いている。	○	推進会議での関わりを通して市町村との関係作りに拡げていき、ホームの活動等について情報提供を行い、サービスの質の向上に共に取り組めるよう期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月“レーブだより”を請求書と一緒に送りし、ホーム全体の暮らしぶりや新入職員のお知らせをし、来訪時に紹介している。職員は家族によって知りたい事が違う事を理解し、個別に健康状態や薬について、お話ししたり電話で報告している。外出前に家族からお金をお預かりして買物をして頂き、来訪時におつりをお返して、ホーム内では金銭管理を行っていないが、自分で出来る方には自己管理して頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置すると共に、ご意見・不満・苦情等を率直に言って頂けるよう、入居時に市等の相談窓口をお伝えし、言い難い事は併設施設の相談員に言って頂くようお願いしている。家族と話し合う関係作りは出来ており、畑や外に出る事、外泊についての相談やご意見を、直接言って頂いている。家族のご意見等は記録に残し、理事長・施設長へ相談し段差部分のスロープ設置につながった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動はないが計画作成担当者等、必要に応じたユニット間での異動は行っている。休みの希望に極力応じたり忘年会、新年会などの職員親睦の場を設け、職員は苦手な部分を他職員が補う等チームワークが取れており、悩みを聞いたり職員のストレス解消に努めている。職員交代時は入居者の不安を軽減出来るよう傾聴し、新入職員に対し管理者を中心にリーダーが、個別ケアについての情報提供や指導を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回全員出席の介護会議で対応についてや出来ている事のチェックを行ったり、資格取得に向け併設施設職員が講師になり、ケアマネジャー・介護福祉士の受験講座を開催し勤務調整を行っている。外部研修の参加機会は少ないが以前に比べ増えてきており、資料配布や口頭で伝達している。新入職時の研修計画はあるが、職員毎の段階的な計画は特になく資格取得の受験要件を満たした時、事務所から声かけしたり勉強の場は作られている。	○	職員の希望を基に、経験・習熟度等に応じて段階的に力をつけていけるよう、管理者が計画原案を作成し事務長と相談しながら、職員育成に取り組まれる事に期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連携・交流について併設施設の事務長に相談しながら、休日を利用して他グループホームへ訪問したり、近隣のホームから研修に来られた経緯はあるが、継続的に相互訪問等は行われていない。	○	相互訪問を通じてケアの振り返りや見直しにつながっていくと考えられる。理事長・事務長に相談しながら、積極的な交流・連携を図りたいとの思いがあり、今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設施設からの入居者が多く、相談員から入居前日や当日に決定の連絡があり入居に至っているが、日頃からの入居者の交流や、職員が研修等で併設施設に出入りしたり、ユニホームが同一という事もあり、特に不安や違和感なく過ごして頂いている。場所の認識等の戸惑いがある時は、慣れるまで職員が添っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの干し柿作りや野菜を植える時期、漬物の漬け方や「どうするんですかね」とお聞きする等、教えて頂く場面を意識して作っている。全盲の方に画像を見る事は出来ないが、テレビを見る事を勧め「嬉しかった昔の事を思い出した」とか、夜勤時に「寝ないの大変ね」と労いの言葉を頂いたり、他の入居者を気にかけて頂く等、ゆっくりと側で関わりグループホームの良さを改めて感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「外を杖で歩ける様になりたい」と希望され、室内の歩行訓練を行い戸外で歩行訓練につなげる等、生活行為をどうしたいと思っているのかや、暮らし方についての望み等の把握に努めている。把握が困難な入居者の行動や表情から思いを汲み取ったり、生活習慣・趣味等を把握したり、職員間で話し合いを繰り返している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の状況等に応じて『その人らしく暮らし続ける』為の個別・具体的な課題になっているが、目標が大括りになっている部分がある。殆どの方に『地域で暮らす』視点が盛り込まれていないが、日々の取り組みはされており、現在行っているケアの具体的な援助について書かれていないものもある。行動障害を表す言葉や専門用語が使われている部分もあり、家族からは「お任せします」と言われる事が多く、説明・同意も全家族には行っていない。レーブ会議時に医師や他専門職員に相談している。	○	入居者一人ひとりの状況に応じた具体的な目標にする事や、ケアの内容を個別の手順書として記載する事で、入居者・家族、職員にとっても達成感や、現状把握等の評価が容易となると考えられる。今後の取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行い入居者の要望・状態の変化が生じた時は、毎月のケア会議で検討し臨機応変に見直しを行っている。要望・状態に変化が見られない入居者について、毎月検討を行っていないが、定期的なモニタリング記録として残している。	○	新たな要望や変化が見られない入居者に関しても、今後月に1度は変化の兆しについてや、計画変更の必要性について検討される事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週に1回往診して頂き夜間は併設施設の看護師に電話し、対処法を相談したり必要に応じ来訪して貰ったり、24時間体制での連携が取れている。家族の方の通院介助が難しい時には、片道40分位かかる場所に、職員が同行して自宅近く迄ドライブがてら寄ったり、買物に行ったり、外泊時は薬・日常生活についての情報提供等行っている。	○	家族との関係・時間を大切にする上でも、ドライブする際に家族の方に案内し参加して頂けるよう、更に充実していきたいとの考えがあり、今後の取り組みに期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点で協力医療機関が主治医になっており、設置のない診療科は、以前からのかかりつけ医や家族が希望される時に、主治医が紹介状を書かれ受診されている。職員が通院介助を行い何かある時は医師間で情報交換等が行われたり、家族や看護師を通じての相談でホームから直接行う事はない。定期受診結果に変化がある時は、速やかな電話報告や来訪時に説明したり、外部の受診は家族の協力を頂き、結果をお聞きし十分把握できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りの方針はなく、入居時に重度化や急変時の対応について、特に説明は行っていないが、病院の中にあるホームで「入院できる病院があるので、何かあれば本院に連絡する、悪くなれば病院に行く」と家族も安心されており、入居者・家族の思いは把握できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理事長方針で「〇様」と呼びびしているが、戸惑う方がおられ「〇ちゃん」と呼びする事もある。食べこぼしがある時は意向を確認しエプロン・タオルを使用、失禁時「トイレに行きましようか、お部屋に行きましようか」と傍で声をかける等、自尊心・羞恥心に配慮している。入社時に個人情報保護法の研修を行い、その後も常に理事長から話があり理解しており、申し送りは小さな声で行い情報の漏洩防止に努めているが、小声ではあるが食事会等で話す事がある。	○	つい気付かず個人情報に関する話をしている事があり、注意をしているが今後も引き続き、互いに注意し合い情報漏えい防止に取り組んでいきたいと考えている。更なる取り組みに期待していきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが取れるよう声かけするが無理強いせず、得意な事に合わせ担当の家事をある程度決め健康に支障のない範囲でして頂いたり、声かけをする事でレクリエーションの参加を見守ったり、個々に合わせてのんびりとした生活が出来るよう支援している。外出希望時に「おにぎりだけで良い」と言われ、おにぎり、漬物、果物を持って皆でドライブに出掛けたり、カレンダーのお天気表をリハビリティ表として利用する事で、出来る範囲での活動が活発になったりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳・食器の片付けやテーブル拭きや、出来る範囲で根切りや米洗い、芋づるの皮むきは昔を懐かしみながら皆でされている。職員も一緒に食卓につき、食器の位置を変えたり等の介助をしながら、楽しい雰囲気を作るようにしている。おやつは材料は菜園で採れた唐いも、じゃが芋やブロッコリー、トマトやきゅうり等を買ってきて準備している。献立委員に郷土料理の要望を出し、ドロ様そうめん、浦上そば等取り入れ、時折外食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間・回数がある程度決めているが毎日入られる方もおり、一人づつの入浴や本人に確認しながら同姓介助にしている。入浴を嫌がられる時には「忘れないように○をつけましょう」とカレンダーに印をし入浴を勧めたり、菖蒲湯・ゆず湯、体調に無理のない範囲で湯に浸かる時間、湯温や順番、シャンプー・石鹸等、入浴が楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテンの開閉やおしぼり・洗濯物たたみ、食器出しや鍋敷き・メモ・ノート作り、全盲の方に新聞紙を小さくちぎり牛乳パックに詰めて油を破棄する容器を作ってもらったり、好きな事をして頂くようにしている。CDを聴きながら歌を歌ったり、縫い物や日記をつけたり俳句を詠んだり、散歩やドライブ等、個別に楽しみ事を持って頂いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域外からの入居者も多く周辺の散歩や近くの店の買物等、生活の継続としての外出は少ないが、家族の協力も頂きながらお寺や美容室に行ったりしている。ドライブの際に入居者のご希望をお聞きし、少し遠回りになっても自宅近く迄行ったり、近くを経由したりする事もある。外に出られない方は職員が「ドライブに行きませんか、天気が良いので外へ行きましょう」と、声かけをしストレス発散や五感刺激の機会として、戸外に出て頂くようにしている。	○	これまでの生活の継続としての外出と捉え、出来る範囲で対応しているが今後も、入居者の思いを反映していきたいと考えており、更なる取り組みに期待していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	18:30～5:00迄は防犯上の施錠を行っている。プライバシーの侵害・音による行動制限に配慮しながら、居室のセンサー設置や職員の作業する場所、立つ向きを工夫し声を掛け合い、入居者が落ち着かなくなる時間帯に他の入居者の方に見守りをお願いしている。一人で外出された時は付いて行き上着をお渡ししたり、併設施設の事務所でお茶をお出しする等対応している。路線バスに乗られた時は「今日はバスは出ませんよ」と、運転手さんに対応して頂いている。	○	駐在所さんにも推進会議を通して、顔を覚えて頂くと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定して入居者と一部職員が参加し、年に2回ホーム外へ出て頂く事を最優先として非難誘導を行っているが、夜間を想定した訓練は実施していない。ホームの立地的問題もあり近隣地域の方の協力は難しい状況で、特に協力依頼は行っていないが、隣接ホームや併設施設の応援は受けられる。災害に備えた備品等、特に準備していないが井戸水は停電時も自家発電で利用できることで水の確保は可能である。	○	備蓄品として併設施設に準備されたものがあるが、災害に備えて必要な物品や量等と共に、ホームとしてどのように対応されるのか、検討される事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「美味しい物を食べて頂く」理事長の方針で、好みに合わせ食材や調理法・味付けを変えている。職員は月2回開催される料理教室に参加したり、板前長が週2回献立を基に美味しい調理の実地指導をされる等、美味しく食べられるよう支援している。必要量の飲水が出来るか確認し、飲み物の種類を選べるようにしている。栄養士が作成した献立表で調理し定期的な体重測定や、血液検査結果に基づき医師からの助言を得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が居心地良いと感じる場所が決まっており、季節毎の山野草を手折って廊下等に飾り、畳の場所や木目調のベッド、箆箆が準備され和やかな雰囲気である。大きな窓は陽の射す時間帯はカーテンや、夏場はよしずを利用し光量を調節し、空気が淀まないよう定期的に窓を開けて換気している。食事中に洗面所が直接見えないよう、食卓の配置に気を付けている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	“常に花を飾る”理事長の方針で、居室に一輪ざしの花を飾り、テレビや冷蔵庫、ソファ・テーブル・椅子、収納ケース、広告紙を利用したノート作りの重し用の大きな石等、出来るだけ馴染みの物を持って来て頂いている。今後も馴染みの物を持って来て頂けるよう声かけを続けていく。		